# 熊本城 ～復興に向けて～

令和２年度 秋冬号

## 熊本城内の新補石材集積について

被災した石垣の石材で、再使用ができないほど状態が悪い石材は、新しい石材に交換します。この新しい石材（新補石材）は、金峰山周辺の工事の際出土した石です。現在高橋公園北側（JT跡地）と野鳥園東側で管理しています。

高橋公園北側

野鳥園東側

## 熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣 ： 973面、約79,000㎡

**平成28年４月16日 1時25分「本震 M7.3」**

※前震での被害を含む

| 種　類 | 被害数量 | 内　容 |
|---|---|---|
| 重要文化財建造物 | 13棟 | 倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など |
| 復元建造物 | 20棟 | 倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など |
| 石　垣 | 崩落・膨らみ・緩み 517面<br>（うち崩落50箇所、229面） | 約23,600㎡（全体の29.9%）<br>（うち崩落約8,200㎡（全体の10.3%）） |
| 地　盤 | 陥没・地割れ70箇所 | 約12,345㎡ |
| 便益施設・管理施設 | 26棟 | 屋根・壁破損など |

## 『復興熊本城Vol３天守復興編Ⅱ』

書店にて発売中です！

平成28年（2016）の熊本地震によって甚大な被害を受けた熊本城の記録集を、定期的に発行します。

Vol３では、昭和35年（1960）の天守再建工事から落成までの様子や、昭和・平成の鯱瓦の製作、令和元年度上半期までの復旧の様子などを収録しました。

現在、熊本県内の書店などで発売しています。

Vol4は、2020年12月刊行予定です。

## 熊本県立美術館　本館（11月14日～12月13日）

よみがえった名宝―修復された細川コレクション

「永青文庫常設展示振興基金」によって修復された屏風絵や、熊本地震で被災し、修復が完了した作品を展示。また、美術館コレクションも同時展示。

修復風景：伝狩野山楽筆《狩猟図》永青文庫蔵（当館寄託）

◆その他下半期の展覧会

・永青文庫創立70周年記念「歴史をこえて 細川家の名宝」（９月18日～11月８日）

・新発見！大名・細川家の日々のお道具（10月３日～12月13日）

・名君細川重賢と時習館の英雄たち（１月９日～３月21日）

熊本市中央区二の丸２番
096-352-2111

開館時間など詳細はホームページまで

## 熊本ミュージアム わくわく座

**期間**：9月19日(土)～11月29日(日)

**場所**：わくわく座2階　ビューラウンジ

**内容**：熊本城天守閣再建から60周年を迎えたのを記念し、天守閣にまつわる「写真」の展示を行います。市民のみなさまから募集した写真を中心に、明治～令和へ、天守の歴史を写真で紹介をします。皆さまの想い出が、多くの方の想い出と重なる展示を目指します。

**料金**：入館料(大人300円、子ども(小・中学生)100円)

（お得な熊本城との共通入園券もあります）

熊本市中央区二の丸1-1-1
096-288-5600

開館時間など詳細はホームページまで

## 熊本博物館

熊本博物館 KUMAMOTO CITY MUSEUM

「ひとのすがた、いのりのかたち－肖像彫刻の世界－」

令和2年(2020年)12月5日(土)～令和3年(2021年)1月24日(日)

《木造東陵永璵禅師倚像》
南北朝時代　雲巌禅寺所蔵
（熊本博物館保管）

平成30年度に国庫補助を得て修復した重要文化財《木造東陵永璵禅師倚像》（所蔵：雲巌禅寺、管理団体：熊本市）を中心に、僧侶や武将などの姿を表したさまざまな肖像彫刻を展示します。

※本展は当館入場料のみでご観覧いただけます。

一般400円、大・高生300円
中学生以下200円

熊本市中央区古京町3-2
096-324-3500

開館時間など詳細はホームページまで

※施設の臨時休館や開催を変更する場合がございます。詳細はお出かけ前にご確認ください。

←新型コロナウイルス感染症の影響により公開を変更する場合がございます。最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

# 天守閣の復旧工事

## 大天守の内部工事

地階は、入園者が石垣に近接する場所であるため、石垣の正面に金属製の支柱と高強度の金網を設置し安全対策を行ないました。また、今まで階段のみで昇り降りが困難だった方も天守閣に入れるように、利用制限を設けた小型エレベーターを新たに設置しました。最上階は白木の木質空間とし、床や柱や天井には熊本県産材の桧を使用した、一新された空間になっています。

地階石垣と安全対策

小型エレベーター

一新された大天守最上階

最上階南側の仕上がり

## 小天守４階足場解体

2020年８月に、小天守４階の足場の解体を行ないました。小天守４階がより見やすくなっています。年末には、足場がなくなり、全体が見えるようになります。

小天守４階　東から

小天守４階　南東から

# 調査研究の成果

## 大天守附櫓

2020年８月に大天守附櫓石段の復旧が完了しました。この石段は昭和35年（1960）天守再建時に築かれたものです。石垣の復旧に先立ち、確認調査を実施し、本来の天守への進入路である大天守附櫓台石垣を確認しました。

埋没石垣確認状況（赤矢印）（2019年２月10日）

発掘作業風景（2020年７月７日）

埋没石段（明治時代以降築造）確認状況（2020年７月８日）

大天守附櫓石段復旧状況（2020年９月13日）

## 監物櫓

被災櫓解体後で石垣解体修理前に、これらをどのように復旧するかを考える情報を得るため発掘調査を行いました。結果、近代の土留め用石垣や櫓に葺かれていた江戸時代の瓦などが出土しました。

埋没していた石垣を確認（2020年３月２日）

発掘作業風景（2020年３月９日）

## 要人櫓

2020年５月から、飯田丸五階櫓下の要人櫓の石垣解体工事を行っています。解体調査によって江戸時代の建物の礎石と明治時代の石組の溝を発見しました。江戸時代の遺構を守りながら工事が進んでいます。

江戸時代の礎石確認状況（2020年５月27日）

石組の溝（1889年以降設置）（2020年６月８日）

石垣解体作業（2020年６月26日）

※写真の日付は撮影日